

〔A〕次の傍線部の品詞として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 「言はんずる」「里へ出でんずる」など言へば、やがていとわろし。〔枕草子〕
- ① 連体詞 ② 副詞 ③ 助詞 ④ 形容動詞 ⑤ 感動詞 ⑥ 助動詞 ⑦ 接続詞 ⑧ 動詞 ⑨ 形容詞
- 2 作り人さへいとほしけれ。〔枕草子〕
- ① 連体詞 ② 助詞 ③ 助動詞 ④ 形容詞 ⑤ 副詞 ⑥ 動詞 ⑦ 感動詞 ⑧ 形容動詞 ⑨ 接続詞

〔B〕次の文章は、都から遠方に流された光源氏を描く『源氏物語』須磨の巻の一節である。傍線部の敬語の複合形式について、それぞれ敬意の対象となっている人物二人が誰なのか答えよ。

- 3 京を別れし時、心苦しかりし人々の御ありさまなどいと恋しく、南殿の桜盛りになりぬらん、一年の花の宴に、院の御気色、内裏の上のいときよらになまめいて、わが作れる句を誦じたまひしも、思ひ出できこえたまふ。
- 〔源氏〕 いとなく大宮人の恋しきに桜かざししけふも来にけり
- いとつれづれなるに、大殿の三位中将は、今は宰相になりて、人柄のいとよければ、時世のおぼえ重くてもしたまへど、世の中あはれにあぢきなく、ものをりごと恋しくおぼえたまへば、事の聞こえありて罪に当るともいかがはせむと思しなして、にはかに参うでたまふ。うち見るより、めづらしうれしきにも、ひとつ涙ぞこぼれける。〔源氏物語〕
- 〔注〕院（桐壺院） 内裏の上（朱雀帝） 大殿の三位中将（もとの頭中将）

〔C〕傍線部を単語に分けて品詞を示し、それぞれ文法的に説明せよ。

- 4 為家卿は、家官こそめでたかりしかども、御室の五十首などにも、〔ささめごと〕
- 4 「

〔D〕次の傍線部の口語訳として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 5 熊手を懸けて塀を引きけるあひだ、すでに引き破られぬべう見えけるところに、城の内より、〔太平記〕
- ① すでに引き倒されてしまつているのを見たところ ② 今にも引き倒れそうに見えたところ
- ③ もう引き倒されているはずだと推測したところ ④ もはや引き倒すことはできないように見えたところ
- ⑤ もはや引き倒してしまふべきと考えたところ
- 6 池めいて窪まり、水つける所あり。ほとりに松もありき。〔土佐日記〕
- ① 松もあつたことだなあ ② 松もあつたはずだ ③ 松もあつたと聞いている ④ 松も確かにあつた
- 7 「もの一言をだに言はむ。さてもはた、見けりとこそは、思はれめ」とて、〔平中物語〕
- ① さらに何か一言を言わせてください ② せめて何か一言だけでも言つてやろう
- ③ 今ごろ何か一言を言つているだろう ④ かつて何か一言だけ言つたことがあつた
- ⑤ そのうち何か一言を言うことがあるだろう
- 8 空さむみ花にまがへてちる雪にと、わななくわななく書きとらせて、いかに思ふらんとわびし。〔枕草子〕
- ① 空が寒いのに ② 何となく恹しく感じて ③ 空が寒いから ④ 空が暗くなりかけて
- 9 やがてそのをりの空のけしきも、月も花も、心にそめらるるにこそあべかめれ。〔更級日記〕
- ① 心に強く印象づけられるものようだ ② 心に深く刻みつけられてしまったのだ
- ③ 心に染み込むことはあるまい ④ 心に染むというほどのこともない

〔E〕次の空欄に入る語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 10 時に両陣の犬ども、一、二百疋つづ放し合はせれば、入りちがへ追ひ合ひ、上になり下になり、くひ合ふ声、天を響かし地を動かす。これを見て、「」は、「あなおもしろや。ただ戦場に勝負を決するに異ならず」と感じ、智ある人はこれを聞きても、「あなまいまし。ひとへにこれ郊原に屍を争ふに似たり」とぞ悲しみにける。〔太平記〕
- ① 若き者 ② 輿に乗る者 ③ 心なき者 ④ 斐ある者 ⑤ 飼ふ者
- 11 かくて冬にもなりしかば、弁慶思ひけるは、人の重宝は千揃へて持つに、奥州の秀衡は名馬千匹、筑紫の菊池が鎧千領、松浦の大夫は胡千腰、弓千張、かやうに重宝を揃へて持つなるに、弁慶は代はりなければ買ひても持たず、人を知らねば付属せられず、詮するところ弁慶夜に入りて、京中に佇みて、人の持ちたらんずる太刀千振取りて重宝にせ「」と思ひ、人の太刀を取り歩く。〔義経記〕
- ① しか ② ちるる ③ ばや ④ り ⑤ ざれ

- 12 この女ども、男の供なりける人に、たれぞと問ひければ、その人なりぞと答へけるに、この女ども、音にのみ聞きつるを、いざ、呼びす多て、ものいはむ、いかがあると聞かむとて、おなじうは、この庭の月をかしきをも「」といひければ、この男、なにのよきこととて、もろともに入りけり。〔平中物語〕
- ① 覚えけむ ② 見せむ ③ 聞くらむ ④ 興じたり ⑤ 言ひけり
- 12 「

解答

〔古典文法②〕 国語頻出問題 2004訂版 P294～P317

- 1 〔②〕 〔第9章・131〕
- 2 〔④〕 〔第9章・131〕
- 3 〔きこえ〕内裏の上／たまふ〓光源氏／参うで〓光源氏
／たまふ〓大殿の三位中将 〔第9章・90〕
- 4 〔めでたかり〕形容詞「めでたし」の連用形／
しか〓過去の助動詞「き」の已然形／ども〓接続助詞 〔第9章・148〕
- 5 〔②〕 〔第9章・106〕
- 6 〔④〕 〔第9章・95〕
- 7 〔②〕 〔第9章・96〕
- 8 〔③〕 〔第9章・104〕
- 9 〔①〕 〔第9章・109〕
- 10 〔③〕 〔第9章・115〕
- 11 〔③〕 〔第9章・129〕
- 12 〔②〕 〔第9章・127〕